

平成 29 年度 山梨県立大学 人間福祉学部 学長プロジェクト 報告

リユース・アート・プログラム 活動記録集



目 次

はじめに	…	1
素材体験 ～自然物で構成を楽しむ～	山梨県立大学 古屋祥子	… 2
身体表現あそび ～木とかくれんぼ&風になろう～	山梨県立大学 高野牧子	… 6
親子ふれあい科学あそび ～リユース・アートを親子で楽しもう～	いづみ幼稚園・みたま幼稚園 岩田公之輔	… 8
2月のハッピーマカロン団「宇宙」をテーマに楽しもう	山梨県立大学 大塚ゆかり	… 15
リユース・アートってなあに？ 新紺屋小学校放課後子供教室	渡邊加実	… 17
さをり織りの体験	THE Six SENSE ～医療福祉系リアル人生ゲーム～ NPO法人Ubdobe甲信越支部 横川裕加里	… 21
平成28年度子育てリーダー・実力アップ講座 リユース・アート入門 ～素材で遊ぶ～	山梨県社会教育課 進藤美佳	… 23
高齢者福祉施設におけるリユース・アートプログラム	山梨県立大学 中島朱美	… 27
「介護予防相談会」のワークショップ	山梨県立大学 青柳暁子	… 31
リユース倉庫 棚作り	山梨県立大学 古屋祥子	… 32
リユース・サロン 制作計画	山梨県立大学 古屋祥子	… 35
素材紹介		… 38
リユース・アート、素材利用のお申し込み		… 39

はじめに

山梨県立大学リユース・アート・プロジェクトは、県内企業から製品を作る過程で生じる端材等を無償で提供いただき、それをアートの素材として蘇らせ、新たな価値を提案する取り組みです。このプロジェクトは、私ども人間形成学科の教員 2 名が、イタリア、レッジョ・エミリア市にある「レミダ (REMIDA)」という半官半民の組織が行う活動に触発されたのがきっかけです。この「レミダ」は、ミラノやボローニャにも存在し、市内の企業から出る端材を倉庫で管理し、美術教育の素材として学校等に提供しています。私どもが訪問した倉庫にはたくさんの素材が美しく並べられており、見ているだけで創作意欲をかき立てられました。そこで体験したワークショップは、素材を十分に味わい、感じたままに表現するゴールフリーの芸術教育であり、感銘を受けるものでした。こうした活動を山梨でも取り組みたいと考え、仲間を募り、立ち上げ、平成 27 年度山梨県立大学学長プロジェクトとして始まりました。

平成 27 年度は、県内の企業に趣旨をご説明し、素材提供のお願いに伺い、多数のご協力を得て素敵な素材が 90 品目以上集まりました。山梨県産の木材、和紙、ニット、さざれ石など貴重な素材ばかりです。こうした素材を利用することで、子どもたちが地域の特産品に触れ、地域の良さを体感する機会になりました。また、利用いただいた団体より、繭や珍しい形の松ぼっくり、平成 28 年度には、ぶどうのつるを結ぶためのバインド線、畳の縁などの素材を提供いただきました。快く素材を提供いただいた皆様へ心より深く感謝申し上げます。

平成 28 年度は素材の活用方法として「リユース・アート・プログラム」を集積する年としました。活動の対象を子どもだけではなく、障害児・者や高齢者へも広げ、より多くご利用いただきました。本報告書は、こうした多様な対象に実施したリユース・アート・プログラムの活動を記録したものです。

活動を通じて、せっかくの素材をどのように利用したらよいか悩むというご意見がありました。本報告書で掲載した多様なプログラムが、活動のヒントとして役立つことを願っています。

すべての人がその人らしく表現活動をするために、そして素敵な素材から生き生きとした表現へと展開できるように、今後ともご支援をお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

「リユース・アート・プログラムの研究開発プロジェクト」

～すべての人がその人らしく表現活動をするために～

プロジェクト代表

高野 牧子

活動事例 1	
「素材体験 ～自然物で “かたち” の構成を楽しむ～」	
実施日時	2016年12月19日（月）10:00 ～12:00
場所	Fuji こどもの家バンビーノの森
利用対象者 （33名）	Fuji こどもの家バンビーノの森に在籍している園児 3歳未満児・年少グループ 16名 年中・年長グループ 17名
特別な配慮	大学から持参したリユース素材とともに、園が前もって収集したものや、当日子ども達が森を散歩して見つけてきた自然物を利用することにした。 開放感のある環境設定にするため屋外で実施した。 子どもの発達段階に合わせて、3歳未満児・年少グループと年中・年長グループとの2回に分けて1時間ずつ活動を行った。
使用した素材	ピアノの部品、皮ひも、和紙（大きさ、厚さ、色、素材感等の異なるものを多数）といったリユース素材、木の板、松ぼっくり（数種類）、小枝（太さ、長さ、加工したものなど数種類）などの自然物、ボンド、グルーガン
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	活動展開 場所設営、ブルーシートに素材を並べる 【1 クラス目】3歳未満児・年少グループ 16名 ・導入 ・素材の分類ゲーム 講師の問いかけに対し、テーブルに並べた素材の中から自分が該当すると思ったものを選んで持ってきて、指定の場所に移動する ・ 「ながほそーいもの」を持ってきて（形の意識） ・ 「丸いもの、ふたつ」持ってきて（形と数の意識） ・ 「白いもの」持ってきて（色への意識） ・ 「四角いもの、ふたつ」持ってきて（形と数の意識） ・ 「森にあるもの」を持ってきて（自然物への意識） ・ 「気に入ったものを持ってきて」（好み、選択への意識） ・素材選びと組み合わせ遊び（反応見ながら数を限定 3～5） ・素材の面白さを発見（さわる、音を出す、いろんな角度から見る、変形させるなどして） ・組み合わせの検討 ・気に入った組み合わせができた子どもから接着（大人が補助） ・出来上がった子どもからテーブルに並べて片付け 作品鑑賞（一部の子ども）

	【2クラス目】年中・年長グループ 17 名 ・導入 素材の確認（どこから集めたものか、どんな形か、どんな色かなど 問いかけ） ・素材の分類ゲーム 講師の問いかけに対し、テーブルに並べた素材の中から自分が該当す と思ったものを選んで持ってきて、指定の場所に移動する ・「こんな形のもの」を持ってきて 枝（自然物を形として意識） 枝 輪切り（自然物を形として意識） 松ぼっくり（自然物を形として意識） 和紙 （似ている形を探す） ・「気に入ったもの」を持ってきて（好み、選択への意識） ・素材選びと組み合わせ遊び 集めてきた素材の中から 1 つずつ取って 5 種類の形を組み合わせる ・素材の面白さを発見（なぜ選んだのか聞く、さわる、音を出す、い ろんな角度から見るなどして） ・素材の組み合わせの検討 ・気に入った組み合わせができた子どもから接着（大人が補助） ・出来上がった子どもからテーブルに並べて片付け ・作品鑑賞（一部の子ども） 参加者の様子 ・ものを選ぶ際、「どれにしようかなー」と楽しそうに迷う様子が印象 的であった。選び終わったあとに選んだ理由を聞くと、それぞれしっか り答えられていた。同じ素材でも自然物には個体差があることを知り、 その中で自分が良いと思うポイントを発見できていた。 ・子ども達が普段から知っているものでも、並べたり、分類したり、集 めたりする中で、ものとももの共通項や違いを発見していた。また、自 分の思う形や色の感覚に対し、友達の感覚の違いも受け止めているよう に見えた。 ・素材を組み合わせるだけというシンプルな工程の中で、組み換えを繰 り返したり素材を変形させたりするなど、自分の手を使いながら工夫を 覚えていく様子が見られた。 ・出来上がった作品を丁寧に運んだり、友達の作品に関心を寄せたり、
--	--

	制作物への愛着や他人の感性への興味がうかがえた。
評価・感想 今後の課題	立体的な構成を好む子どもが多く、予想以上に接着の補助をする大人の手が必要であった。 子どもによって制作ペースの違いがあり、すべての子どもが納得いくまで取り組むことを優先させたため、全体での鑑賞ができなかった。

記録者担当：（ 古屋祥子 ）





活動事例2 身体表現あそび ー木とかくれんぼ&風になろうー	
実施日時	2016年7月14日(木) 10:30 ~ 11:30
場所	Fuji こどもの家バンビーノの森
利用対象者 (33名)	Fuji こどもの家バンビーノの森に在籍している園児 未満児・年少グループ16名 年中・年長グループ17名
特別な配慮	開放感のある環境設定として屋外で実施した。 活動範囲を設定し、木に不織布で目印をつけた。 全員で活動するが、慣れている縦割り2グループでも分かれ、行った。
使用した素材	少し長めに切った色とりどりの不織布
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	活動展開 ご挨拶 ・活動内容の簡単な説明 ・遊びの場の範囲設定(木に不織布で印) WU ・「はじはじ はじまるよ」 身体部位 頭・肩・肘・胸・尻・膝 動き シェイク・パンチ・回す・ジャンプ 動き遊び(2人~3人で) 表現遊び①「木とかくれんぼ」 (1)活動内容の理解(見る) ・大きな木に隠れ、手足などを出すのを講師が演じ、子どもたちが見る (2)活動①(自分なりに工夫する) 2グループに分かれる ・自分の好きな木を選び、隠れる。そこから手や他の部位(足や頭等)だけ出したり、引っ込めたりする。 ・どこに誰が隠れて、どんな動きをしているか観る ・交代して行う。 表現遊び②「風になろう」 (1)絵本『かぜ びゅんびゅん』を読む (2)絵本に合わせて、不織布を持って、風を表現する(パタパタ、ぐるぐる、高い、低いなど) (3)列になって走る (4)木に隠れたり、木の間を走ったりして、好きな風になる まとめ

	参加者の様子 • 好きな色の不織布を選び、絵本の言葉に合わせて、思い切り、振ったり、回ったり、投げたり、揺れたりなど、様々な動きを楽しそうに体験していた。 • 不織布を途中で友達と交換したり、投げ合う姿も見られた。 • 列になって走るのは、年長はとても楽しそうに木々の間を渡り、走り回ったが、年少、未満児はついていけなかった。
評価・感想 今後の課題	不織布はカラフルで軽く、子どもたちにも扱いやすく、屋外でも汚れを気にせず、使うことができる。体を思いきり動かすことで不織布がなびくので、体を大きく動かすよう、自然に促すことができた。 運動発達に年齢差があるので、グループ分けや内容をもっと考慮すべきである。

記録者担当：（ 高野牧子 ）



活動事例3 親子ふれあい科学あそび ～リユース・アートを親子で楽しもう～	
実施日時	28年 12月 19日(月) 10:30 ～ 11:30 12月 20日(火) 10:30 ～ 11:30
場所	19日 いづみ幼稚園 ホール (甲府市国母1-24-6) 20日 みたま幼稚園 ホール (甲府市里吉1-3-7)
利用対象者 (213名)	19日 いづみ幼稚園年長児とその保護者72組、計144名 20日 みたま幼稚園年長児とその保護者34組、計69人
特別な配慮	・撮影場所として壁面にラシャ紙をつるしたが、それでは足りずに、色画用紙を用意して、背景として自由に使えるようにした。 ・保護者のスマホ・携帯で撮影した写真を園のメールアドレスに送ってもらい、作品紹介する時間をとった。 ・使う素材は上限を5種類にした。1種類は何個でも使ってよい。 ・のり・はさみ・テープの使用はしなかった。
使用した素材	県立大学からお借りした素材(まゆ、鍵盤部品、布、和紙、木材、宝石、松ぼっくり等) 保護者にも協力してもらい、幼稚園で集めた素材(布、宝石、ぶどうの蔓、木材、ポンポン、クッション材、プリンカップ、畳の縁、ござ)
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	・園の科学あそびはもともと、「知的好奇心」をはぐくむことを目的に、空気砲や静電気あそび、影絵あそび、塩の実験、スライムづくり等の活動をしてきた。今回は科学あそびとは多少趣向が違うが、リユース・アートを通じて「子ども目線」を保護者も一緒になって楽しむことを目的とした。 ・リユース・アートの活動で様々な素材、見たことのない素材と出会ったことで、「おもしろそうだな」「やってみたいな」という知的好奇心を大きく育む良い機会となった。 ・素材を選ぶ時にもさまざまな考えを巡らせ、また、それを組み立てる時、そして撮影するときにもいろんな工夫や、面白い視点がでてきて、保護者も感心していた。 ・当初は保護者も戸惑い気味であったが、予定していた時間を10分オーバーした。 ・1日目のいづみ幼稚園の時に撮影した作品を紹介する時間が短かったという反省があったので、みたま幼稚園では全員分を紹介した。スマホもしくは携帯つきカメラの所持率は100%であった。メールの件名に

	クラスの園児氏名、そして本文にタイトルと一言コメントをつけてもらった。面白いタイトルをつける園児もたくさんいた。 タイトルから子どもの視線の面白さがよく伝わってくる作品があるので、このメールで作品を送信するという方法はひとつのやり方としてよい方法であると思った。 ・片づけも保護者がいたので、スムーズにできていた。 ・終わった後に「すごく楽しかったです」という感想が多く寄せられた。 ・師走の忙しい時期の開催であったが、保護者が忙しい冬休み中に、子どもたちの家庭でのあそびが充実すればということで、このタイミングの開催となった。園では、あそび方が決まってしまう「おもちゃ」よりも「工作あそび」「造形あそび」を推奨している。保護者もまた「工作あそび」「造形あそび」が子どもたちの創造力を無限に引き出すよいあそびであることを、再認識していただけたことと思う。
評価・感想 今後の課題	大好評だったので、来年度は夏休み前、もしくは6月くらいにリユース・アートの活動をしたいと計画しています。その際はお世話になります。よろしくお願いいたします。 また、他リユース・アートに関わるワークショップなどあれば、ご案内ください。 楽しい活動ができました。素材をたくさんお借りしまして、本当にありがとうございました。

記録者担当：（園長 岩田 公之輔 ）

☆ いづみ幼稚園（12月19日）



150人近い人数がはいたので、すこし混雑しましたが、なんとかできました。



壁面にラシャ紙を5色ほどつるし、
撮影スペースにしました。



バスの運転手お手製のライトテーブル
を使って

✧ 作品集



天気がよかったので、テラスもつかって
撮影
タイトル「金の河」
影の入り方も面白い作品



タイトル「宇宙」



タイトル「森のクリスマスツリー」

保護者コメント：

動物柄の布を見つけてたので、ツリーに集まる動物たちにしました。

まゆやパールビーズで雪降る様子をイメージしました。

季節柄、クリスマス为主题にリースやツリーの作品もたくさんありました。



タイトル「宇宙人」

目がユニーク



タイトル「森のコンビニ」

保護者（父）の作品

親子のコラボでもよいし、

親子でそれぞれの作品をつくってもよいということにしました。

12月20日 みたま幼稚園

ここからは、みたま幼稚園での様子です。

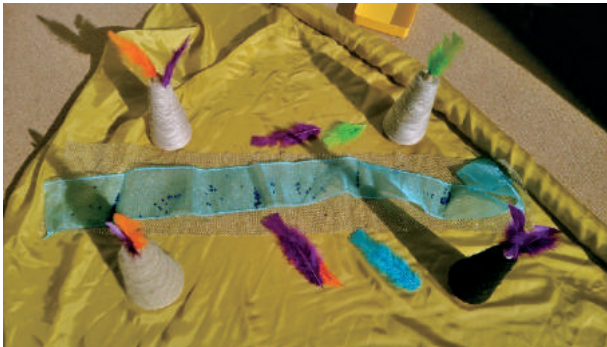


←天気がよかったので、
テラスも使いました

◇ 作品集



タイトル「すてきな楽器」



タイトル「あたたかい川」
日差しがあたたかなテラスで作った
作品。



タイトル「おうちとおふろ」

シンプル



タイトル「へびが立っているところ」

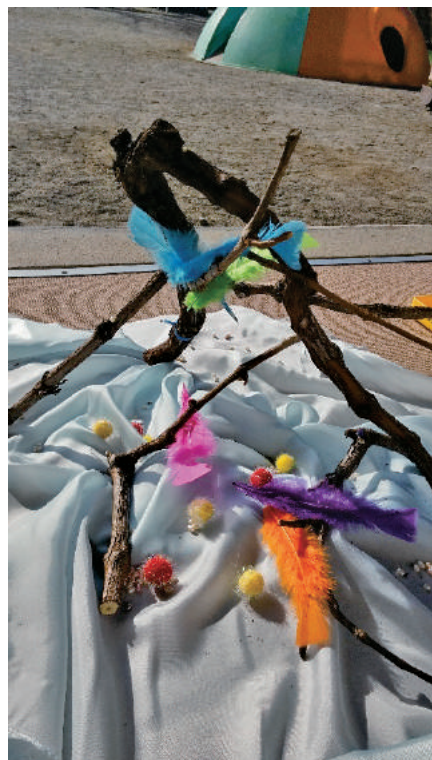
バインド線をつかった作品



タイトル「登り龍」

龍が雲を抜けて天高く上がっていく様子を表現
しました
畳のへりを使った作品

タイトル「深海」
海の中の綺麗な魚と、図鑑でみた卵をイメー
ジしました。
ぶどうの蔓をつかった作品。



タイトル:「雲の上の樹」

一言:美味しそうな雲の中から、木が生え
てきたところを表現しました。

活動事例4 2月のハッピーマカロン団「宇宙」をテーマに楽しもう	
実施日時	2017年 2月 4日（土）10:00 ～ 12:00
場所	山梨県立大学 B-302
利用対象者 （8名）	障害児・者（発達障害、ダウン症など） 臨床美術士、施設スタッフ、学生、教員など
特別な配慮	特になし
使用した素材	和紙、石、羽、木材、針金など
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	ハッピーマカロン団について 障害児（特に発達障害児）を対象とした臨床美術とピアカウンセリングやSSTなどをとりいれた創作グループ活動。2014年2月から毎月1回開催。 初期から利用している子どもたちが年齢を重ね社会人となっているが、参加を継続している。 今回初めてリユース材料を使い、「宇宙」というテーマについて思い浮かんだことや考えたことイメージなどを表現した。 リユース材料があるところに参加者みんなで見に行き、使いたい材料を自分で選んで決めることをした。いろいろなものがあり「わくわくするね!」「迷っちゃう!」などと歓声が上がリ、選ぶこと自体が楽しい行為となった。 今後も利用したいと参加者も希望している。 活動風景 別紙（写真） 作成したものは、甲府駅前の「タリーズ」にて展示中。
評価・感想 今後の課題	毎月開催しているグループでは、限られたものを用いて絵を創作することが多かったが、今回は今まで利用したことがないようなものも取り入れることができて創作の幅も広がった。また一人ひとりがいろいろな形で表現することを楽しむことができた。 リユース材料を利用することで想像力を形にし、グループの目標である、表現することの楽しさを感じ、体験してほしいと考える。

記録者担当：（大塚ゆかり）



真剣に創作中「宇宙」



何を利用しているの？ 藁？和紙？

グループ活動風景・作品



「タリーズ」コーヒー(甲府駅前店)2017年2月9日～3月8日 展示中



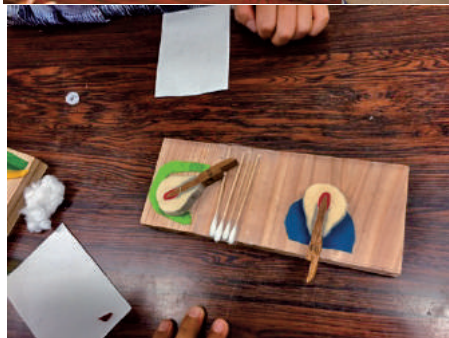
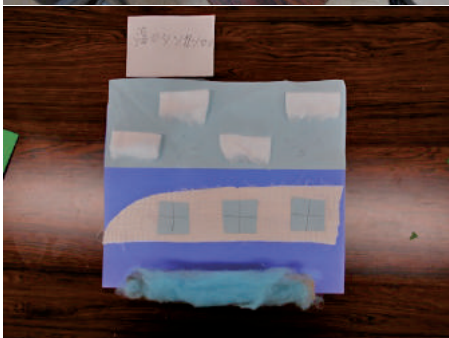
活動事例5	
リユース・アートってなあに？	
実施日時	2016年 8月 19日（金）10：00 ～ 12：00
場所	新紺屋小学校（体育館会議室）
利用対象者 （28名）	小学校1年生～5年生
使用した素材	・木材 ・布 ・和紙 ・不織布 ・まゆ ・糸 ・まつぼっくり ・トイレットペーパーの芯 ・ピアノの部品 ・コットン など
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	① えらぶ 好きな素材を選ぶ ② しらべる 素材の特徴を調べてメモする（見る・触る・嗅ぐ・聴く など） ③ くみあわせる 構成。テーマは決めずに自由に。 ④ てんらん会 完成した作品に題名をつけ、紙に書いて伏せて置く。 作品を見てまわる。題名を想像してから紙を見る。 良い所、面白い所をさがす ・説明をする前から素材を見ただけで「〇〇作る！」という声が聞こえた。 ・素材を触ったり色々な角度から見て観察することでアイディアが浮かんでくる様子が見られた。 ・高学年女子は「一緒に作りたい」との事で、1つの大きな作品を協力して作っていた。 ・周りとは色々話しながら作ったり、1人で黙々と作ったり、組み合わせて機械のような物を作ったり、スカートやエプロンを作ったり、本当にそれぞれの個性が出ていた。
評価・感想 今後の課題	「自由に」と言っても、子ども達は戸惑ってしまうかと思ったが、全く心配は要らずしっかりとそれぞれの作品作りに集中していて、思いもよらないようなアイディアがたくさんあり驚かされた。 予想より「もっと作りたい！」という声があり、時間がなくゆっくりと感想を聞く時間を持てなかった。 今回はできなかったが、写真を撮って最後に皆で見るという活動もしてみたい。

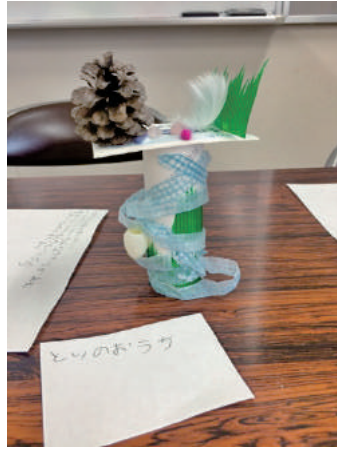
記録者担当：（渡邊 加実 新紺屋放課後子供教室）

◇ 活動の様子



✧ 作品集





活動事例6 さをり織りの体験 THE Six SENSE～医療福祉系リアル人生ゲーム～	
実施日時	2016年 7月 31日(日) 10:00 ～ 16:00
場所	山梨県立図書館
利用対象者 (180名)	一般の参加者 180名
特別な配慮	一般の参加者が織り器を使用するため、使い慣れているスタッフが常時そばに付き添い様子を見る。
使用した素材	織り器で使用する糸
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	福祉や介護に普段触れ合う事の少ない若者や一般の参加者に、授産施設等でよく行われているさをり織りを体験して頂くブースを設置し、一組数回ずつ体験して頂いた。その際使用する糸を山梨県立大学の「リユース・アート・プロジェクト」からいただいた。福祉イベントの趣旨や利用方法を説明して申請し、大学内にある素材倉庫を見学して、さをり織りに適した糸を選び、譲ってもらった。 障がいがあっても手先が器用で、さをり織りの作品を作っている方が多くいることを初めて知ったという参加者がいたり、夢中でさをり織りを行っている小学生や中学生がいたりと様々な反響があった。
評価・感想 今後の課題	リユースの糸で、参加者と共にさをり織りの作品を作成し、アートと共に福祉についても知ってもらうことができたため良かった。

記録者担当：(横川 裕加里 NPO 法人 Ubdobe 甲信越支部)



活動事例 7	
リユース・アート入門 ～素材で遊ぶ～	
実施日時	2016年 8月 7日(土) 10:00 ～ 12:00
場所	山梨県立大学講堂
利用対象者 (32 名)	子育て支援リーダー・実力アップ講座 子育て支援者 32名 補助学生 4名
特別な配慮	特になし
使用した素材	倉庫にある素材すべて
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	講義：講師の古屋祥子准教授が、リユース・アートについて、その理念やイタリアでの状況とボローニャ・レミダでのワークショップの内容、幼児教育での活用事例や本学でのワークショップについて紹介した。 素材を知ろうとする⇒「<u>知ろうとすると発見がある</u>」⇒ワクワクする ↑ 大人が共感してあげる 大切な子育て支援の資質ではないか ワークショップ ①素材を選んでくる…インスピレーションを受けた物、5～7点 ②素材を知る…《ここが大事 時間をとる》よく観察して、素材から発見をメモ。触れる、破る、音を聞く、香りを嗅ぐ 等 ③素材のおもしろさを引き出す…いたずらしながら、その特徴を展開していく ④構成する…発見を並べる 素材同士が引き立つように *今回はテーマはないが、ないと困る人は「子ども」をテーマに ⑤写真作品として残す iPad で撮影 ⑥観賞会 各班の作品をプロジェクターで映し、古屋先生がコメント
評価・感想 今後の課題	古屋先生講評「このような作品を創ることができる皆さんは、ちょっとした子どもの発見にも気づいてあげられると思う。このような方々が子育て支援をしているのは嬉しい。幼稚園ではキットになっているものや先生のやり方をそのまま真似る方法もあるけれど、子どもの自由な発想でも取り組んでほしい。 感想 ・「素材を知る」という段階を子どもたちは楽しんでいることに改めて気付いた。私はもう知っているという気持ちで見過ごしていることが多いと思う。知ろうとしてみると楽しかったです。 ・リユース・アート、いろいろな刺激がありました。何でもアイディア次第でできることが楽しかったです。

	・ワークショップの「素材研究の時間」が面白かった。すっかり私には抜け落ちていて、子どもが生きている世界だと感じていたので、良い発見でした。 ・取り組みが素晴らしいと思いました!! 実際、体験してみて、心がすごく満足した感じです。子どもたちの心もそれ以上になると思います!! ありがとうございました。
--	--

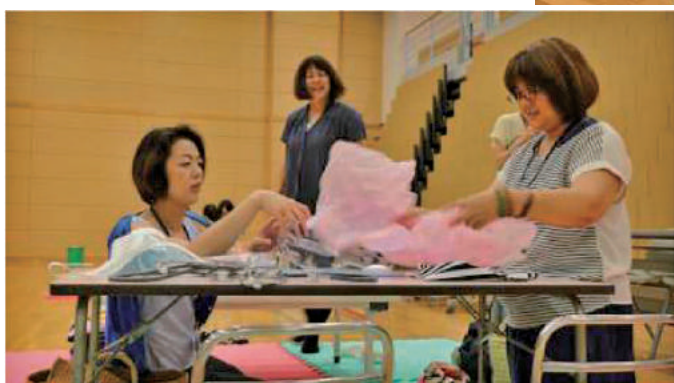
記録者担当：（ 山梨県社会教育課 進藤美佳 報告書より抜粋）

☆ 制作の様子



← 倉庫で素材選び

↓ 素材を知る



↑ 個人やグループで作品構成

iPad で気に入ったアングル
から撮影 →



✧ 作品集





活動事例8	
高齢者福祉施設におけるリユース・アートプログラム	
実施日時	2016年 11月 2日(水) 14:00 ~ 15:00
場所	特別養護老人ホーム ゆめみどり(山梨県甲斐市玉川 1700-1)
利用対象者 (計 24 名)	デイサービス利用者 17 名 入所者 7 名
支援者	中島朱美 介護課程 4 年生 4 名 施設職員 12 名
特別な配慮	認知機能の低下による記憶や理解、判断力などの低下ならびに既往歴の影響を受けている、各利用者の残存機能(麻痺、失語など)の程度に配慮した活動の展開と支援を行った。利用者が怪我をされないよう、材料のカッティングと板のやすりがけは事前に行った。
使用した素材	材木、松ぼっくり(小)、繭玉(黄色系)、段ボールパネル、宝石、つづり紐、色鉛筆、板(小)、茶色和紙、カラー和紙、タイル
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	施設の担当者と、事前打ち合わせを数回行った。その後、支援学生と募り 4 名の協力を得ることができ、準備をすすめた。ボンドやのり、不足する物品の購入等を行い、当日、創作する作品の見本を 3 点(板とタイルを使用した鍋敷き、トイレットペーパーの芯と色和紙をつづり紐、松ぼっくり、繭玉を使用した<u>クリスマスリース</u>、段ボールパネルと宝石、色和紙を使用した<u>写真立て</u>)作成した。難易度を考慮し、選択できるようにした。 事前準備を含め、教育効果を考慮し学生の進行ですすすめた。最初に、利用者へリユース・アート活動の主旨を説明し、写真や作品の展示に関する個人情報保護への説明を行った(事前に施設に文書と口頭で説明し同意を受けている)。次に、3 つの創作作品を提示し、希望する創作活動ごとのテーブルに分かれてもらい、作品ごとそれぞれに手順を説明する担当学生を配置した。職員はテーブルごとで支援を必要とする利用者のサイドに配置し活動の補助を行っていただいた。テーブルごとで作品の創作を行った。クリスマスリースは難易度が高いため、3 名の参加であったが、提示した見本より華やかにアレンジし完成されており、創作活動を楽しんでいたようであった。また、鍋敷きのタイルの配置や写真立ての台紙の切り取り作業や宝石の配置など、いずれも手先や脳の活性化、五感への刺激につながり、リハビリ的な活動にもなっていたようであった。活動時は集中力を要するが、参加者は作品を完成させるまで手を休めることはなかった。最後に完成した作品を参加者で見て共有したが、完成作品を評価されることで自信を持たれ笑顔も見られた。

評価・感想 今後の課題	活動は打ち合わせを重ねたことで、職員の協力を得ることができ、おやつの時間前に終了することができた。利用者は集中して活動に取り組んで見え楽しそうに頭と手先を使用され、それぞれの作品を完成させていた。完成品を持ち帰ることを喜ばれていたが、持ち帰り用の手提げ袋を用意することを忘れてしまい、施設から新聞紙の提供を受けたことが反省点であった。活動そのものは、準備と進行を依頼した学生にとっても学びができ、施設からは、創作活動が少なく刺激があったと感想をいただくことができ、利用者からの感想も概ねよい評価を頂け、有意義であった。
------------------------	--

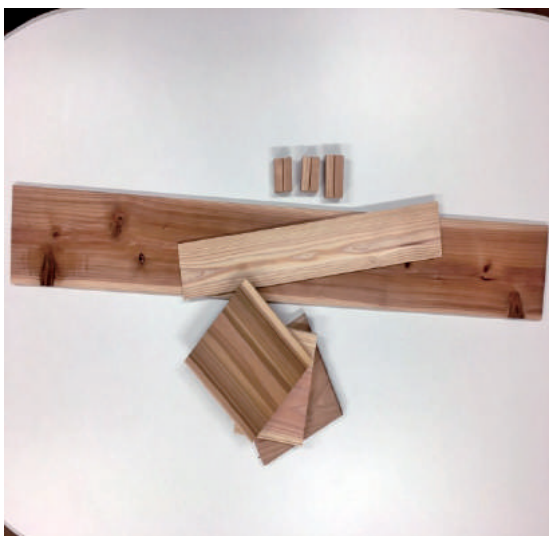
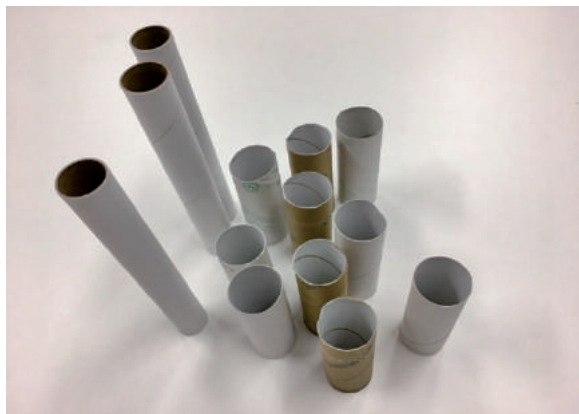
なお、本取り組みは下記の学会で口頭発表いたしました。

中島朱美「リユース・アート・プログラムの活動意義と学生への教育効果」(2017.2.)

第 23 回日本介護福祉教育学会（口頭発表）

記録者担当：（ 中島 朱美 ）

☆ 「使用した素材」



◇ 「使用した素材」

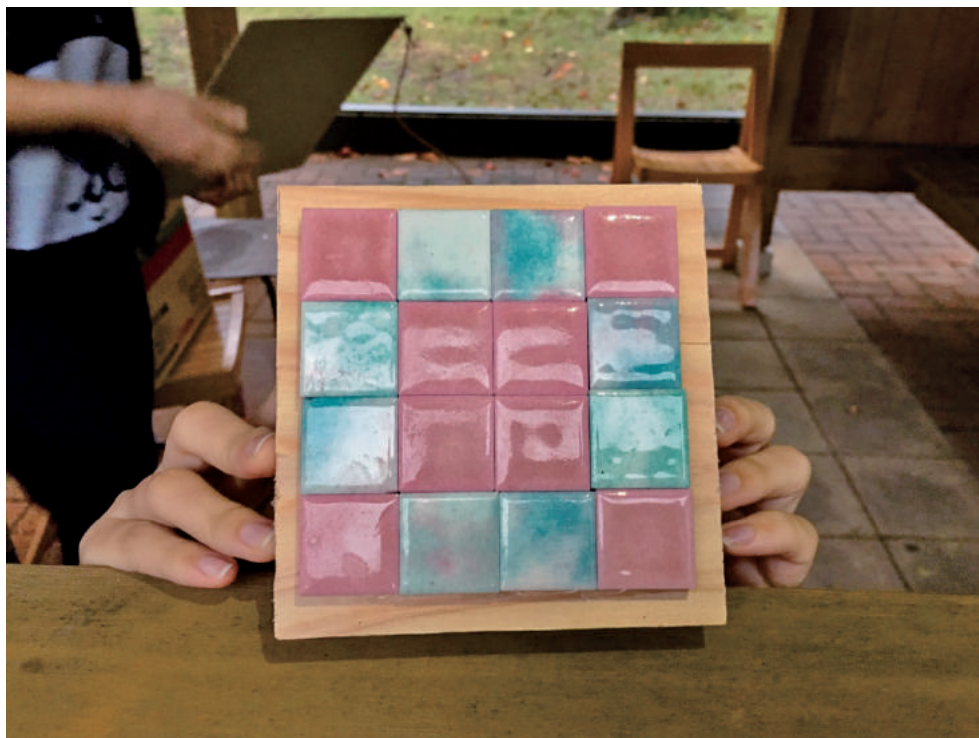


◇ 「完成作品の見本」

①写真立て（使用素材：段ボール、色和紙、宝石）



②鍋敷き（板、タイル）



③クリスマス・リース

（トイレットペーパーの芯と色和紙をつづり紐、松ぼっくり、繭玉）



活動事例⑨ ＜介護予防相談会＞のワークショップ	
実施日時	2016年 10月23日（日）、30日（日）、11月3日（木） 9：00～12：00
場所	山梨県立大学 カフェテリア
特別な配慮	高齢者がわかりやすいようにクイリングの造り方を説明する学生を配置した。
使用した素材	紙
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	穴切地区の高齢者を対象とした介護予防相談会を開催した際、介護予防にもなるクイリングのワークショップを行った。 ①クイリングの見本を見せる ②学生が作り方を説明する。 ③試して頂く ④学生がアドバイスする ・女性よりも男性の方が参加されることが多かった。 ・高齢者は目が疲れるようであったが、こつこつと作業されていた。
評価・感想 今後の課題	見本が少なかったため、クイリングに興味を持っていただく方が比較的少なかった。もう少し多様な作品を展示し、興味を持っていただければ多くの方に楽しんで頂けたと思う。 また、高齢者であるため目が疲れる様なので、もう少し簡単で目の疲れない他の工芸作品などのワークショップを考えてみたい。

記録者担当：（ 青柳 暁子 ）



活動事例１０	
リユース倉庫 棚作り	
実施日時	２０１６ 年 ６月１７日（金） １０：４０～１２：１０ ６月２３日（木） １４：５０～１８：００ ６月２４日（金） １０：４０～１２：１０
場所	山梨県立大学 造形演習室
利用対象者 （３７名）	山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科 年生 「図画工作科基礎」履修者
特別な配慮	木材の特性や県内林業について理解を深めつつ、木工の基礎的な作業を習得する デザインによる空間の変化を実感する 限られた時間の中での作業効率を考える
使用した素材	山梨県産の木材（杉）、くぎ、ボンド、ネジ、紙ヤスリ
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	活動展開 リユース・アート・プロジェクトの素材倉庫は、様々な素材を効率よく収納するだけではなく、利用する人の創作意欲を刺激するようなディスプレイがなされていることが望ましい。これに適した棚を２台制作することを目的に、計４コマの授業の中で活動を行った。 まず、山梨で生産される木材を使った建物づくりに詳しい木工の専門家３名（材木業、設計士、大工職）をゲスト講師に迎え、木材の特質や種類についてレクチャーを受け、木工の基礎的実技を教わった。 時間の制約上、寸法やデザインの大枠はゲスト講師３人と教員で決めて準備を進めた。学生は無垢の板材を採寸して切り、組み立てて、釘やビスで止める作業を行った。装飾のためのカットを工夫して入れたことで特徴ある魅力的な棚に仕上がった。最後に棚を倉庫に運び入れ設置した。 参加者の様子 のこぎりや金槌、インパクトドライバーなどの道具を使うということや、これらを使って大きな棚が出来上がるということに感動している学生がいた。作業を繰り返すことでだんだんと慣れ、できることが増えるという実感が得意意識の形成に作用していく様子が見受けられた。 出来上がったことに対する達成感は予想以上で、木材の良さを体験的に理解する機会となった。
評価・感想 今後の課題	活動の振り返りでは、木工の匠の技術力や素材に対する眼差しへの敬意が多く記述され、また、参加者全員から、木という素材に対して興味を

	持ち、その特性を理解し、親しみを持ったというコメントが得られた。
--	----------------------------------

記録者担当：（ 古屋祥子 ）





活動事例 11	
リユース・サロン 制作計画	
実施日時	2016 年 10月14日(金) 9:00~12:00 12月 9日(金) 9:00~12:00 12月16日(金) 9:00~12:00 12月23日(金) 9:00~12:00
場所	山梨県立大学 造形演習室
利用対象者 (12名)	山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科 3年生 「初等図画工作科指導法」履修者
特別な配慮	木材の特性や県内林業について理解を深めつつ、本格的な木工の作業を体験する デザインによる空間の変化を実感する 限られた時間の中での作業効率を考える
使用した素材	山梨県産の木材(檜、赤松、杉、栗)、くぎ、ボンド、紙ヤスリ、蜜蝋ワックス
主な活動内容 ・活動展開 ・参加者の様子 など	活動展開 学内でデッドスペースとなっている場所を、アート作品展示や小規模なワークショップの会場として利用するサロンスペースとしてリフォームすることを目的に、計8コマの授業の中で活動を行った。まず、現場の採寸をして図面をおこし、学生一人ずつがより良い活用のための構想を練りデザイン案を考えた。 次に、山梨で生産される木材を使った建物づくりに詳しい木工の専門家3名(材木業、設計士、大工職)をゲスト講師に迎え、木材の特質や種類についてレクチャーを受け、木工の基礎的実技を教わった。 デザインには、多くの学生が提案した木の床作りを採用することにし、ゲスト講師3人の協力のもとで準備を進め、4コマの授業を使ってフローリングのねだに無垢の板材を張っていく作業で行った。その後、現場にパネル型のフローリングを敷き詰め、木材にワックスを塗って仕上げをした。 最後に、リユース・アート・プロジェクトで収集した素材を用いたサロンスペースのための看板や装飾を考案し、これまでに教わった木工の技術を使って制作、設置した。 参加者の様子 レクチャー、デザイン、制作と、全てのプロセスに積極的に取り組み、やったことのない作業をすることや、使ったことのない道具を使うこと

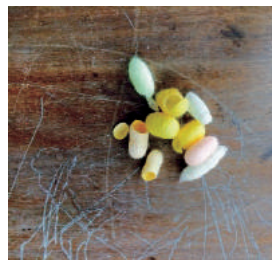
	に好奇心を持って臨んでいた。わからないところは聞くということや、作業を繰り返すことでだんだんと慣れていくという工程を通して、頭での理解や判断と体を使って達成される成功体験が同時になされ、楽しみながらも集中し、主体的に作業が進められている様子があった。 出来上がったことに対する達成感と、自分たちで作り上げたものに対する愛着は予想以上で、大切にしたい、丁寧に使ってほしいといった感情にも繋がることが分かった。 看板や装飾は、ゲスト講師がいない状態で自由に制作したが、これまでの制作で自信が付いた様子で、積極的にやりたいことを形にしていく姿が見受けられた。
評価・感想 今後の課題	活動の振り返りでは、参加者全員が、達成感があり、学びの多い活動であったと述べており、木という素材に対して、その種類や使われ方に興味を持つきっかけとなり、特性の理解や親しみを深められた。

記録者担当：（ 古屋祥子 ）





素材紹介（山梨県立大学飯田キャンパス B105倉庫）



木材、和紙、ニット
水晶、絹織物、繭
松ぼっくり など

ご協力に深く感謝申し上げます

☆ ご協力いただいている企業・園など

- ・株式会社 大直（市川三郷町）和紙・障子紙 など
- ・近藤ニット株式会社（市川三郷町）ニット生地・糸 など
- ・有限会社 ヤマナカ産業（南アルプス市）木材
- ・峡南森林組合（富士川町）木材
- ・山梨県水晶宝飾協同組合（甲府市）水晶 など
- ・フラワーステーションまるい（甲府市）不織布・リボン
- ・有限会社 カシワギ（富士吉田市）絹織物
- ・内藤楽器株式会社（甲府市）ピアノの部品
- ・北杜市立小淵沢西保育園（北杜市）松ぼっくり、繭
- ・いづみ幼稚園、みたま幼稚園（甲府市）バインド線、ぶどうの枝、畳の縁
- ・山梨県立大学看護学部（甲府市）聴診器、綿棒 など



リユース・アート
素材利用・素材提供のお申し込み
下記へお電話ください！

山梨県立大学 （飯田キャンパス） 保育学実習室 担当：末木きよみ
電話・FAX 055-234-5536 火曜・水曜・木曜 10:30～16:00

展覧会「みんなのリユース・アート展」 開催決定！

日程：2017年6月16日（金）～18日（日）

場所：山梨県防災新館 1 階

「やまなしプラザ オープンスクエア」

平成 29 年度 山梨県立大学 人間福祉学部 学長プロジェクト 報告
リユース・アート・プログラム 活動記録集

発行日：2017 年 3 月 20 日

発行者：平成 28 年度山梨県立大学学長プロジェクト

「リユース・アート・プログラムの研究開発プロジェクト」

～すべての人がその人らしく表現活動をするために～

山梨県立大学福祉コミュニティ学科

中島朱美、大塚ゆかり、青柳暁子、山中達也、高木寛之、伊藤健次、大津雅之

山梨県立大学人間形成学科

高野牧子（代表）、古屋祥子、池田充裕、田中 謙、村木洋子、多田幸子

問い合わせ先：〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1 山梨県立大学人間福祉学部

高野牧子研究室 055-224-5269

印刷・製本：太陽甲府株式会社

